

念仏塔

萩野を歩く

萩野区(平和地区)は市内東部に位置し、念仏川を境に旭市に接しています。集落の中央にまつられる熊野神社はこの地域が1200年ごろまで紀州(和歌山県)熊野三山神社の荘園だったことを今に伝えるものといえましょう。

近くの地域に見られる「宇井」「鶴殿」姓は、荘園管理のため紀州から移り住んだ祖先が名乗ったものでしょう。

萩野集落から旭市泉川へ通じる道路を進むと、念仏川水門近くに石碑が2基あります。1基は高さ65cmほどの銚子石



念仏川の縁に立つ念仏塔

(砂岩)と呼ばれる自然石の「念仏塔」です。今では表面の摩耗が進み文字が読みにくくなっていますが、40年ほど前の調査で中央部分に「南無阿弥陀仏」、その左右に「宝曆七年四月吉日」と刻まれ、1757年に立てられたことが分かっています。こうした塔は寺の境内や墓地などにまつられることがほとんどで、川の縁に立っている理由を当時、地域の年配者から「この川をめぐる争いで死者が出、その供養のため碑を立て、川の名を念仏川とした」と聞きました。

市内にはこの伝承を裏付ける史料は見つかっていませんが、『旭市史』には次のように書かれています。

江戸時代、

念仏川は上流の川口村、川向村、東谷村、平木村などは排水路に使い、下流の泉川村、大塚原村などは用水に利用していました。

1790年から翌年にかけての争論は、上流村が取り決めに反し用水を引き入れたため、用水不足になった下流村が訴えたもので、以前に申し渡された判決に従うようにという内容のものでした。

この記録に「念仏川」と書かれてあり、石塔の言い伝えを裏付けるものといえるかも知れません。

水門そばに1895(明治28)年7月に「平和村萩野講中」が立てた「成田山参拝塔」があります。当時多く見られた道標を兼ねた石塔で、明治22年に成立した銚子町、飯岡町、旭町、福岡町(八日市場町)など新町名が刻まれ、時代の変化を感じさせるもので、市内ではただ1基の「成田山参拝塔」です。

念仏川の改修事業が平成10年から行われ、完成後も「念仏塔」はもとの場所で大切に保存されました。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘 書 課 廣 報 広 聴 班

☎ 73・0080